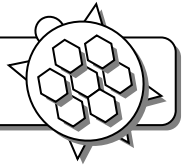


# 亀さん通信

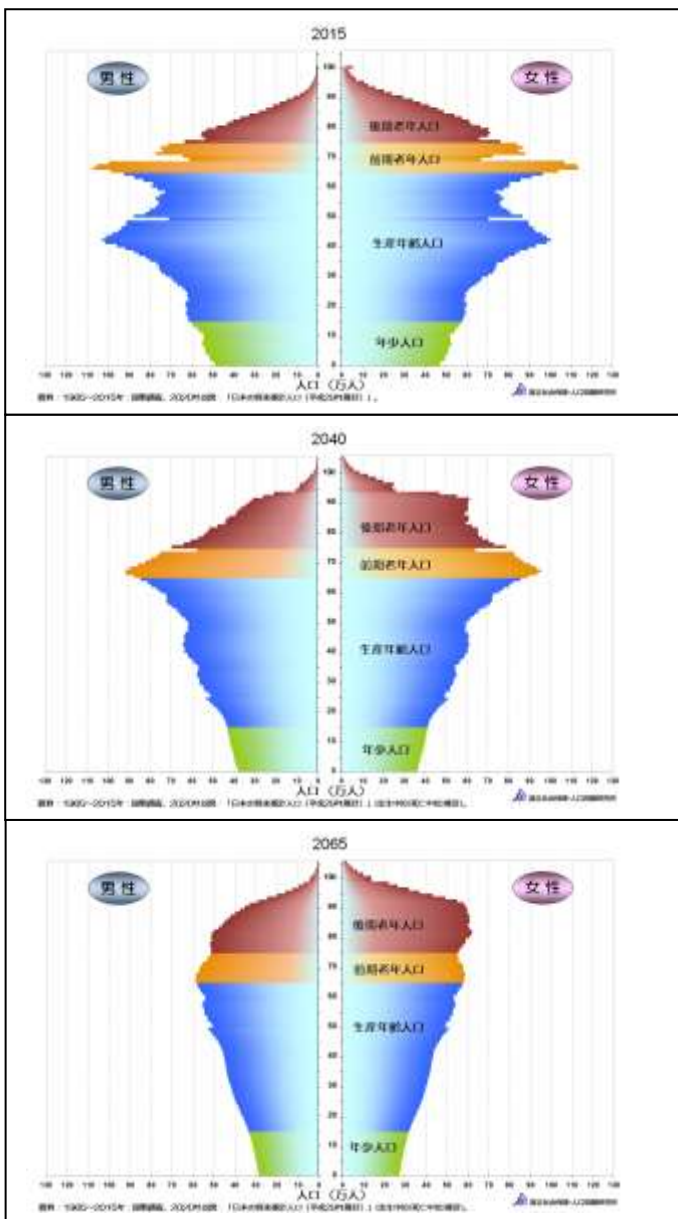
田んぼの水面が眩しい今日この頃、いかがお過ごしでしょうか？

亀のように歩みは遅くとも、『お金力』をしっかり、確実に身につけていただく【亀さん通信】第 164 号の発信です！

## すでに起こった未来



今回はいつもと趣向を変えまして、私が毎日見ているものをご紹介します。本通信でも数年おきに取り上げている、国立社会保障・人口問題研究所の「日本の将来推計人口」です。是非とも想像を逞しくしてご覧ください！



かつて日本は「高齢化社会」と呼ばれていましたが、2010年には、全人口に占める65歳以上の割合が21%を越える「**超高齢化社会**」へ突入。世界を見渡しても、ぶっちぎりの首位を独走しています。本推計でも、高齢者（65歳以上）一人に対する働き手（20～64歳）の人数は、2015年に2.1人だったものが、2038年に1.5人を下回り、2065年に1.2人になるものと推計されています。実に**ゾットする数値**だとは思いませんか？

次に総人口を見てみましょう。2015年の1億2,709万人を境に、日本は**長期の人口減少過程**に入りました。2040年の1億1,092万人を経て、2053年には1億人を割り込み、2065年には8,808万人になるものと推計されています。戦後一貫して増加してきた総人口が、逆に減少していく。多くの日本人が体験したことがない時代が到来したのです。これまでの**常識や価値観といったものが覆される**のは、もはや誰の目にも明らかでしょう。なお、上記の数値は中位推計によるものですが、低く見積もる低位推計ならば、さらに厳しい状況に陥ることを補足します。

「未来を予想してもあまり意味がない。だが、すでに起こり、後戻りのないことであって、10年後、20年後に影響をもたらすことについて知ることには重大な意味がある。しかもそのような**すでに起こった未来を明らかにし備えることは可能**である」現代経営学の巨人、ピーター・ドラッカーの言葉です。すでに起こった未来、即ち本推計を見て見ぬふりをするのか、それとも明らかにして備えるのか。何十年という期間を経れば、両者の間には**歴然たる差**が生じるでしょう。

感覚的に未来を掴んでいただくために、今回はあえて大きな図を用いました。人は自分で納得しないことには、他人にどれだけ言われようとも動きません。**未来に思いを馳せて健全な不安を持ち、勇を鼓して新たな一歩を踏み出していきましょう！**

ツバメの鳴き声は、いつ聞いても心が和みます！

(株)亀山保険事務所 亀山裕弘 (ミ北口) 1級ファイナンシャル・プランニング 技能士 0575-28-2768 info@kameyama-hoken.com